

第13回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

小論文部門

**進路指導とリンクさせる
金融教育の在り方について**

—家計ゲームを通して主体的な選択を行う姿勢を育てる—

広島県・熊野町立熊野中学校 教諭 池田 優子

1. はじめに

私が授業でいつも心掛けていることがある。それは子どもたちに身近な“物”、聞いたことのあるニュース・事例を授業の導入部分で用いることだ。

生徒たちからよく「社会科は暗記ばかりなので苦手・難しい」という声を聞く。「社会で勉強したことが何の役にたつんですか？」という率直な問いをぶつける生徒もいる。

本来、社会科の学習は生徒の生活にとって最も身近なものであるはずだ。例えば、スーパーのチラシ1枚からでも、さまざまな情報を読み取り、なぜそうなるかを考えることができる。野菜の産地からわかる促成栽培や近郊農業の特徴。外国産の食材がチラシにどのくらい掲載されているかからとらえられる経済のグローバル化。季節による供給量の違いや、コンビニエンスストアと比較した営業時間帯や陳列形態の違いから生じる商品の価格差の理由を考察するなど、地理的分野・公民的分野の学習につながる題材がチラシ1枚の中に多く含まれている。

「中学校学習指導要領 第2節 社会〔公民的分野〕 2 内容(2) 私たちと経済 ア 市場の働きと経済」では、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。」¹⁾としており、人間の生活を維持・向上させる手段である経済活動を、生徒にとって身近な消費を中心に理解させるように示している。

私は、生徒たちにとって身近な“物”を授業の題材として取り上げ、まずは社会科への興味関心を高め、より深く知ろうとする学習意欲の向上を目指してきた。その中でこれまで公民的分野で金融教育の一環として実践してきた家計ゲームについて取り上げ、その効果と課題、そして今後の実践計画についてまとめていきたい。

2. 本校の実態

私は家計ゲームを通して①主体的に進路選択を行おうとする意識の向上、②希薄化しつつある生徒の金銭感覚の育成を目指している。

中学校3年生の公民の授業をしていて、何度か「高校って授業料がかかるんですか？」と生徒に驚かれたことがある。中学校までは義務教育である、ということは大半の生徒が知っているが、高等学校への進学率が97%を超えている現在、高等学校への進学は当たり前、よって授業料もかからない、と思っている生徒が少なくない。

そこで今年の7月に本校の実態を調べるために3年生84名に以下のアンケートを実施した。

1. 高等学校の毎月の授業料はいくらくらいだと思いますか。金額を書いて下さい。
私立()円 公立()円
2. 自分の家の1ヶ月の食費がどのくらいか知っていますか。
① だいたい知っている ② あまり知らない ③ 全く知らない

アンケートの質問1について、公立高等学校の授業料が0円と答えた生徒が84名中17名いた。私立の高等学校は授業料がかかるというのは知っているようだが、公立の高等学校は無償であると思っている生徒が多いことがわかる。一方でアンケート終了後に「高等学校の教科書はいくらですか？」と質問し、高等学校からは教科書が無償でないことを知っている生徒もいた。また授業料の金額を空欄にしていた生徒は7名いた。つまり約3割の生徒が高等学校への通学に費用がかかるという認識が薄い状況であると思われる。

高等学校進学に際し、どれだけお金が必要かを知ることで「高等学校は当たり前のように行く場所ではない。保護者にお金を払ってもらってこそ行ける場所なのだ。だからこそ、中学生の時以上に主体的な学習意欲がなければならない。」ことに気づかせ、自らの意思で責任を持って進路選択をしてほしいと願っている。

またアンケートの質問2から顕著なのが、生徒たちの金銭感覚の希薄化である。高等学校進学に関する費用もそうだが、自分たちが生活するのにどのくらいのお金がかかっているのかを知らない生徒が多い。内閣府が実施した「平成27年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」²⁾によると、中学生でスマートフォンや携帯電話を使用している率が60.9%となっている。また、金融広報中央委員会が実施した「子どものくらしとお金に関する調査(第3回)2015年度」³⁾によると、自分用の携帯電話・スマートフォンを持っている生徒のうち、毎月の利用料金を把握していない生徒が65.5%であり、前回調査時の28.7%に比べると、36.8%と大幅に増加している。同調査によると、コンビニエンスストアでの買い物や公共交通機関の利用に電子マネーを利用している中学生の割合も33.7%と、こちらも前回調査時の

26.3%よりも7.4%増加している。以上の結果より、見えないお金の利用率は高まっているが、いくらか利用しているかの把握は十分になされていないという実態が垣間見える。今から20年近く前に、私はコンビニエンスストアでアルバイトをしていた。ある日、昼食の牛丼を買いに来た中学生が、レジでの支払いの際に、1円足りなかったという出来事があった。必死で財布やポケットを探していたが、小銭が見当たらず、商品を元の場所に返しにいった時のその困った表情を今でも覚えている。だが、電子マネーが普及すれば、消費税分の計算も不要である。このような困った経験をする機会もあまりないだろう。だが、リアルな金銭感覚を養うお金のやり取りをする場面が減るということは同時に、1円の重み、お金の大切さを痛感する場面も減少しているということになるのではないか。お金には限りがある。だからこそ商品を手にとった時に自分が本当に欲しいものなのか、今、必要なものなのか、持っている金額で買えるのか、さまざまな条件をふまえたうえで購入する商品を選択する。

生徒の自立には、大学進学や就職、結婚を機に、どのくらいの費用が必要か、限られた収入の中でどう優先順位をつけて、やりくりしていくのかという金銭感覚の育成が不可欠である。生活にあたってどのような費用が必要なのかを中学生の段階から把握させ、自立の際の手助けになればと思ってこれまで家計ゲームを実践してきた。だが、長年実施していくうちに課題も見えてきた。そこで家計ゲームのブラッシュアップを本年度は図っていくことにした。

3. 昨年度までの実践と課題

昨年度まで実施してきた家計ゲームのやり方は次のとおりである。

- ①ゲーム実施前の授業の終わりに、「自分の家で食費や光熱費、携帯電話代がどのくらいかかっているか家族に聞いてくる」宿題を出す。電卓を班で一つ持参するように伝える。
- ②班を一つの家族とみなす。前回出した宿題をもとに、班のメンバーで話し合っ、月々に必要な消費支出について何を、どのくらい支払うか金額を設定し、ワークシートに記入する。
- ③毎月の収入から②で設定した支出を引く。さらに、毎月、イベントカードを1枚引く。そのイベントで指示された臨時収入・支出を加えて、その月の貯蓄額を出す。
- ④10月～3月までの半年間で、どれくらいの貯蓄ができるか（生命保険料は除く）を計算する。

家計ゲームを実施した時の生徒の反応は大変良好である。各班でイベントカードを引くごとに盛り上がり、班内で協力して貯蓄額を計算している様子が見られる。授業後に感想を記入させたところ、「楽しかった。またやりたい。」というものが多かった。「自分の日々の学校生活や受験にこんなにお金がかかっているとは思わなかった。親に感謝しなければいけないと思った。」「いざという時のためにも保険には入っておいた方がいいと思った。」など、自身の進路選択や生活設計について考える一つのきっかけにはなっていた。

だが、あくまで単元の導入部分としての位置づけにとどまり、次の授業以降に家計ゲームの内容を生かすことが昨年度まではできていなかった。感想の記入も同様で、その時は保護者に対する感謝の思いが生まれたとしても、それを継続させて主体的に進路選択をする意識を向上させるまでには至らなかった。

経済の単元の学習全体を通して家計ゲームの内容を生かすこと、さらに感想の部分で生徒により進路選択への責任を焦点化して考察させるようにすれば、より学習効果を高められるのではと考えた。

4. 本年度の改善点

本年度、改善を図ったのはイベントカードの内容の見直しとワークシートの修正である。

昨年度までの課題を解決するため、まず今後の経済の授業とリンクするようにイベントカード（資料1）の内容を一新した。

以下、イベントカードの内容と関連するページを、東京書籍『新編新しい社会 公民』⁴⁾の「第4章 私たちの暮らしと経済」において示す（指導計画は資料2）。

イベントカードの内容	経済の学習における関連ページ
電子マネーの利用でポイントがたまったり 携帯電話の長時間通話で通信料がかさんだ	1 節：消費生活と経済 私たちの消費生活 (p.121)
オンラインゲームの課金トラブル	1 節：消費生活と経済 消費者の権利を守るために (p.124)
ネットショッピングでのお取り寄せ	1 節：消費生活と経済 消費生活を支える流通 (p.127)
父親の持つ株の価格の上昇（下落）で配当による臨時収入 が入る（損失が出る）	2 節：生産と労働 株式会社の仕組みと企業の社会的責任 (p.130)
野菜の価格や旅行価格、石油価格など需要と供給による価格 の変動	3 節：価格の働きと金融 市場経済の仕組み (p.137)
利子による収入	3 節：価格の働きと金融 私たちの生活と金融機関 (p.142)
父親の勤務する会社の収益に円高や円安が与える影響	5 節：これからの経済と社会 グローバル化する日本経済 (p.156)

さらに、イベントカードに、高等学校入学時にかかる教科書などの教材費や制服代金を追加した。加えて、本校からの進学者が多い高等学校を取り上げ、通学にかかる交通費についても生徒たちに示す予定である。本校の所在地である熊野町からは最寄りの JR 呉線矢野駅に向かうには徒歩では不可能なため、まず、町内を運行しているバスか自家用車を利用する必要がある。自家用車であっても、朝の通勤・通学時の渋滞を避ける場合は有料道路を利用する必要があり、他の地域に住んでいる生徒に比べると、高等学校通学にかかる交通費が高い。

高等学校は義務教育とは異なり、より保護者の費用面でのサポートを必要とするものであることを痛感させ、責任をもって進路選択をする大切さを指導していきたい。

ワークシートの改善点は2点ある。1つ目はより進路指導の視点を含めた振り返りの記入欄を設けた点である。昨年度から家計簿設定シートに公立・私立高等学校の受験料だけでなく、入学手続き金も含めた。生徒実態アンケートにも見られたように、昨年度の生徒たちも自分たちの予想以上の費用がかかっていることに大変驚いていた。その結果、「お金がないから塾には行かせない。公立しか受験させない。」といいはじめた班がいくつもでてきた。「自分が子どもの立場なら、それいわれて納得できる？」と尋ねると「……いや、やっぱり嫌かも。もう一校受けたい。」「でも、お金がかかるんでしょ？」「……。」「進学にかかる費用という一面だけを見て突発的に進路選択の幅を狭め、進路変更をして本当に自分が納得できるのか。」「自分は今後、何を学び、将来どのような仕事に就きたいと考えているのかまで真剣に考えて選んだ結果なのか。」思考を揺さぶる発問を投げかけていくと、生徒たちは希望する受験方法や進路選択について真剣に考え始め、班内で自分がどうしたいのか話し始めた。

だが、現実問題として進学には費用が発生するという現実を生徒たちはこのゲームで知る。ならば、保護者の方とどうすればいいのか。妥協点を見出すのか。それとも説得するのか。説得するならば、保護者の方を説得できるだけの志望理由が自分の中にあるのか。この点を本年度はより生徒自身に振り返らせたい。そのために、昨年度までは感想のみを記入させていたが、本年度のワークシート（資料3）では、「ゲームを通して気づいたことや、お金はどのように使うべきと思ったか」「高等学校への進学にかかる費用を見て、進路選択にはどんなことが大切だと思うか」というように、振り返りとして記入する内容を焦点化した。

2点目は保険の追加補償の選択の幅を広げた点である。本年度は、自動車保険の個人賠償責任特約と火災保険の洪水補償の選択を追加した。本校は通学路が非常に狭く、本年度も自転車通学中に自動車と接触する事故が発生したり、交通事故によってけがをした生徒もいる。また、平成26年に広島県内で起こった土砂災害や平成28年に起こった熊本地震など大規模な災害が続いていることを生徒たちもニュースを通じて知っている。だが、火災保険では水害被害が補償されていないものや地震による火災の発生は補償対象に含まれないものもある。将来自分が保険契約を締結する時に保険会社社任

せではなく、自分で情報を集め、保険内容をよく調べたうえで契約しなければ、保険金が下りないという事態になりかねない。一方で限られた収入の中で全ての保険に加入すると保険料は大きな負担になる。消費の要ともいえる、価格を考慮したうえで、自分に必要かどうか“選択”するという活動を、保険の特約付帯や補償内容を選択する中で体験できるのではないかと思った。

そこで生徒にとって身近でイメージがしやすい自転車事故と自然災害の保険についてはより理解を深めさせるために、補償内容が追加できるようにした。ただし、入院保険やがん保険など契約内容がより複雑になると、生徒の理解が困難になることや時間不足にならないようにすることに配慮し、生命保険に関しては加入するかどうかのシンプルな設定のままにした。生命保険の加入設定を細分化するかどうかは、本年度の実践後に改めて検討する予定である。

5. 今後目指すべき公民的分野での金融教育

平成26年11月に文部科学省は、次回の学習指導要領改訂に向けて、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について中央教育審議会に諮問を行っているが、その中で以下のように理由をあげている。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成に関連して、これまでも、例えば、OECDが提唱するキー・コンピテンシーの育成に関する取組や、論理的思考力や表現力、探究心等を備えた人間育成を目指す国際バカロレアのカリキュラム、ユネスコが提唱する持続可能な開発のための教育（ESD）などの取組が実施されています。さらに、未曾有（みぞう）の大災害となった東日本大震災における困難を克服する中で、様々な現実的課題と関わりながら、被災地の復興と安全で安心な地域づくりを図るとともに、日本の未来を考えていこうとする新しい教育の取組も芽生えています。

これらの取組に共通しているのは、ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要であるという視点です。⁵⁾

今後の小・中・高等学校教育は、社会との関わりをより意識し、学びの成果を実生活の中で活用・実践していく能力の育成が求められていく。実際、本校がある広島県では平成26年12月にグローバル化する21世紀の社会を生き抜くための資質・能力を育成するための新しい教育モデルとして「学びの変革」アクション・プラン⁶⁾を提示した。ここでは「実社会との繋がりを重視した体験的な学びを重視」する新たな授業の方向性が示されている。家計ゲームのような体験的な学びを授業の中で増やし、実社会との繋がりを感ずることができれば、生徒たちは学校での学びに価値を認め、主体的に学ぼうとする意欲・態度の向上に繋がるのではないだろうか。

私は初任者の時に指導教員の先生から「社会科は世の中をよくする学問だと思う」といわれたことをきっかけに「世の中をよくし、生徒一人一人が幸せに生きるためには何が必要なのか」を社会科の学習を通して考えさせたいと思っている。そこで、公民的分野の学習を開始する時に生徒たちに「自分が幸せに生きていくためには何が必要か」を尋ねている。多くの生徒が真っ先に「お金」と答える。ならば、幸せに生きるためにはお金の向き合い方、望ましい消費のあり方を中学生のうちから主体的に考える機会をつくるべきである。自分にとって何が必要か考え、責任をもって判断・選択を行う。この過程は消費活動でも進路選択でも共通している。つまり、生き方を学ぶという点で金融教育と進路指導は繋がっているといえる。

さらに、生きていく中で何度もこの判断・選択は繰り返される。実社会の中で、トラブルに巻き込まれたり、就職・転職などを考えた時、自分がどう行動して解決するのか。授業を通して、生徒たちが生き抜く力を得て、実社会でも生かせるような取組を今後も継続していきたいと思う。

注1) 文部科学省「中学校学習指導要領」平成20年7月（平成22年11月一部改正）

注2) 内閣府「平成27年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（概要）平成28年3月

URL http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h27/net-jittai/pdf/kekka_gaiyo.pdf

注3) 金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査（第3回）2015年度調査」2016年6月29日

URL http://www.shiruporuto.jp/education/data/container/kodomo_chosa/2015/pdf/15kodomo.pdf

注4) 東京書籍『新編新しい社会 公民』平成28年

注5) 文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」平成26年11月20日

URL http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm

注6) 広島県教育委員会「広島版『学びの変革』アクション・プラン」平成26年12月

URL <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/global-manabinohenkaku-actionplan/index.html>

資料1 イベントカード

地震で、家の一部が壊れる。 地震保険に入っていない場合は、リフォーム代として500万円払う。	宝くじがあたった。 5万円もらう。	父が株を保有している会社が不祥事を起こし、株価が暴落する。3万円の損失を出す。	入試に向けて塾に通うことにする。 今後、毎月教育費に3万円加算する。	長雨が続き、野菜の収穫が減る。野菜が値上がりしたため、1万円多く払う。	父が株を保有しているおもちや会社が開発したゲームが大ヒット。配当金5万円をもらう。	火災が発生し、キッチン部分が焼けてしまう。火災保険に入っていないければ300万円払う。	円高の影響を受けて父の会社の輸出が大幅減となり、給料もダウン。 3万円マイナスとなる。
地震で壁にひびが入った。地震保険に入っていないかったら50万円払う。	地震で壁にひびが入った。地震保険に入っていないかったら50万円払う。	親戚からお米やみかんが送られてきた。 食費がういたので、1万円分プラスする。	寒いので暖房やガスをたくさん使用。 光熱費がかさみ、1万円払う。	兄弟がスマホを使ってゲームで課金をしてしまう。5万円払う。	新しいロボット型掃除機を買う。6万円払う。		
祖父母からお小遣いをもたらう。 1万円プラスする。	父の飲み代がかさむ。 2万円払う。	父が盲腸で入院。 生命保険に加入していなければ10万円払う。	友達と映画を見に行く。 昼食代と交通費込みで2000円払う。	塾で実力テストを受験する。 3000円払う。	父が株を保有している会社の開発したドリンクが大ヒットし、配当がでる。 2万円もらう。		
スタッドレスタイヤが古くなってきたので購入する。 10万円払う。	父の飲み代がかさむ。 2万円払う。	父が盲腸で入院。 生命保険に加入していなければ10万円払う。	中東情勢が不安定になり石油価格が上昇。ガソリンの値段が上がり、5000円払う。	車検を受ける。 10万円払う。	父が株を保有している会社の開発したドリンクが大ヒットし、配当がでる。 2万円もらう。		
			ウイルス性腸炎で嘔吐と下痢を繰り返し、病院で点滴。5000円払う。	部活動の練習試合が続く。 交通費と食費で5000円払う。	高校見学に回る。 交通費などで5000円払う。		

<p>父にがんが見つかり、入院。生命保険に入っていないければ、これから毎月治療費に5万円払う。</p>	<p>母が交通事故を起こし、相手の人に大けがをさせてしまう。自動車保険に加入していなければ1000万円払う。</p>	<p>ゲリラ豪雨で床下浸水の被害。火災保険に水害被害補てんをセツトしていない場合は200万円払う。</p>	<p>部活動で必要な道具を購入。 1万円払う。</p>	<p>友達とスマホで長電話。 5000円払う。</p>	<p>いとこが出産する。 お祝いとして1万円払う。</p>
<p>インフルエンザの予防接種を打つ。兄弟二人分で1万円払う。</p>	<p>父が株を保有しているおもちゃ会社が開発したゲームが大ヒット。配当金5万円をもらう。</p>	<p>地震による火災が発生。地震保険に入っていないければ1000万円払う。 注・地震による火災は火災保険が適応されない。</p>	<p>東京デイズニールランドへGO！クリスマス旅行なので宿泊費がいつもより高い。 20万円払う。</p>	<p>円安がすすみ、父の会社の業績が好調になる。 5万円プラスする。</p>	<p>部活動の大会で遠征。交通費と宿泊費で2万円払う。</p>
<p>北海道旅行でカニ・ウニ寿司をたらふく食べる。 30万円払う。</p>	<p>自転車通学中に小学生をはねてしまう。 自動車保険に自転車特約をつけていなければ治療費10万円を払う。</p>	<p>テレビの調子が悪いので買い替える。10万円払う。</p>	<p>今月は特に何もなかった。</p>	<p>塾に通うための交通費を電子マネーにチャージ。 1万円払う。</p>	<p>お正月用の食材や飾りなどを買う。2万円払う。</p>
<p>久しぶりに銀行の通帳に記帳すると、利子が1000円ついていた。 臨時収入とする。</p>	<p>父の誕生日。プレゼント代として2万円払う。</p>	<p>電子マネーのポイントが1万ポイントたまつた。1万円を臨時収入とする。</p>	<p>おいしいと評判のチーズケーキをインターネットでお取り寄せする。 3000円払う。</p>	<p>家族みんなで買い物に行き、外食する。 1万円払う。</p>	<p>近所の方が亡くなる。香典として5000円払う。</p>
<p>塾での補習に申し込む。 5万円払う。</p>	<p>天候不順で野菜がとれず、価格が上昇する。 5000円払う。</p>	<p>寒くなってきたので新しい服を買う。1万円払う。</p>	<p>塾に通うための交通費を電子マネーにチャージ。 1万円払う。</p>	<p>お正月用の食材や飾りなどを買う。2万円払う。</p>	<p>父が定期券を紛失してしまふ。5万円払う。</p>

資料2 指導計画

第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済 (配当4時間)

【単元指導計画書 (全4時間)】

次	学習内容 (時教)	評 価					評価方法
		関	思	技	知	評 価 規 準	
一	家計ゲームをやってみよう (本時) どのような支出にいくらかかっているか知る	◎	○			<ul style="list-style-type: none"> ●将来の家計支出の予測や改善について話し合うことを通じて、身近な経済活動である家計に興味・関心を持つことができる。 (関心・意欲・態度) ●家計では限られた収入をもとに価格を考慮して選択していることに気づき、望ましい消費について考察できる。 (思考・判断・表現) 	行動観察 ワークシート
二	私たちの消費生活 (p.120~121) 収入・支出の種類 賢い消費者		○		◎	<ul style="list-style-type: none"> ●家計における収入と支出、貯蓄の関係について理解し、その知識を身につけている。 (知識・理解) ●電子マネーや携帯電話料金などの見えにくい消費に対して消費者としてどう向き合うべきかを考察できる。 (思考・判断・表現) 	ノート ワークシート
三	消費者の権利 (p.124~125) 消費者問題について 消費者問題の解決方法 消費者の権利や行政の役割		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> ●消費者問題に対して望ましい対応を考察できる。 (思考・判断・表現) ●消費者の権利や、消費者問題に対する行政の役割について理解し、その知識を身につけている。 (知識・理解) 	ワークシート ノート
四	消費生活を支える流通 (p.126~127)	○	◎			<ul style="list-style-type: none"> ●身近な商品の流通経路について積極的に調べている。 (関心・意欲・態度) ●流通の役割やインターネットを使用した流通の合理化が、価格にどう影響を与えるか多面的・多角的に考察している。 (思考・判断・表現) 	行動観察 ワークシート

【本時の指導計画書】

(1) 本時の目標

家計とはどのようなものか体験し、自分たちで望ましいお金の使い方について考えることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ★支援を要する生徒への手立て	評価規準	評価方法
1 本時の目標を確認する。(5分)			
<p>○前回の宿題内容を尋ねる。 「家の食費や光熱費、携帯電話の利用料金がどのくらいか聞いてきたか？」</p> <p>○ワークシートを配布し、本時の目標を確認する。</p>			
<p>【目標】家計とはどのようなものか体験し、自分たちで望ましいお金の使い方を考えることができる</p>			
2 家計ゲームを行う。(35分)			
<p>○ルールを説明する。</p> <p>○班内で10分程度話し合いながら、家計簿設定シートを記入する。</p> <p>○家計ゲームを開始する。</p> <p>○1月になった時点で受験校数を決め、受験料をいくりにするか、班で3分話し合っ、金額を記入する。</p> <p>○3月が終了した時点で貯蓄額の合計を計算し、各班ごとに黒板に記入する。</p>	<p>★日用品代などが予想しにくい班は挙手をするよう伝える。 各グループの設定を見て回り、あまりにも現実とかけ離れた予算設定をしている場合は、具体的な商品価格を伝え、その予算が適切か見直すよう助言する。</p> <p>★計算が難しい場合は電卓を使用させる。</p> <p>・受験が家計に与える負担を数字で意識させる。そのうえで、自分ならどうしたいか、班のメンバーである保護者とどう相談・説得するか考えるよう指示する。</p>	<p>将来の家計支出の予測や改善について話し合うことを通じて、身近な経済活動である家計に興味・関心を持つことができる。 (関心・意欲・態度)</p>	<p>行動観察</p> <p>ワークシート</p>
3 本時のまとめを行う。(10分)			
<p>○家計ゲームの振り返りをワークシートに記入する。 数名に発表させ、気づきをクラスで共有する。</p>	<p>★ゲームを通して、どのような費用が必要だと初めて知ったか、どのようにお金を使うべきだと思ったか、などワークシートに記入すべき内容を焦点化し、書く手がかりを与える。</p>	<p>家計では限られた収入をもとに価格を考慮して選択していることに気づき、望ましい消費について考察できる。 (思考・判断・表現)</p>	<p>ワークシート</p>

資料3 授業のワークシート

★ 家計ゲーム 一番貯蓄する班はどこだ？★ 名前

【すべての班に共通の設定】

- ・あなたたちの班を一つの家族とします。両親と中3・中1の兄弟の4人家族です。
- ・月収は[税金、厚生年金、健康保険、雇用保険]住宅ローンを引いて手取り25万円 ボーナスはサイコロを振り、出た目×10万円とします。ただし、6が出たら、業績不振のため、ボーナスはできません。

【各班で話し合っ設定すること】

- ①まず、保険に入るかどうかを決めます。ゲーム開始後は追加加入できません。 入る保険に○を付け、毎月の保険料を決めてください。

自動車保険： 10000円	* 自転車特約： +100円	生命保険： 20000円
火災保険： 1000円	* 水害補償： +500円	地震保険： 500円

保険代合計： 円・・・A

一つも保険に加入しない班は貯蓄額 500万円から、保険に一つでも加入した班は貯蓄額 400万円からスタートします。あなたの班は 万円からスタート

- ②前回の宿題で家族に聞き取ってきた支出額を参考にし、班のメンバーで話し合っ下項目の支出額を書きましょう。

食費 円	新聞代 円 購読するなら月 3000円	日用品代 円 (洗剤やペーパー類など)
光熱費 円 (電気・ガス・水道代)	ガソリン代 円	娯楽費 円 (全員の小遣い含む)

合計： 円・・・B

- ③班内で話し合っ、以下の支出で払うものに○をつけ支出額を計算してください。

通	インターネット (いる・いない)・・・いるなら月 4000円加算する。
信	固定電話 (いる・いない)・・・いるなら月 6000円加算する。
費	携帯電話 父(持つ・持たない) 母(持つ・持たない) 中1(持つ・持たない) 中3(持つ・持たない) * 大人は一人につき、7000円 子どもは一人につき 3000円ずつ加算する。
教	諸費は一人につき 5000円×2人=10000円 これは必ず支払うこと。
育	塾 中1(行く・行かない)・・・行くなら月 10000円加算する。
費	中3(行く・行かない)・・・行くなら月 30000円加算する。

合計： 円・・・C

一ヶ月の支出予定額は A+B+C= 円・・・とする。

【家計簿】

* 12月～2月は冬なので、どの家庭も光熱費に 5000円をプラスする。

* 受験料は私立1校 17000円 公立は 2200円 私立入学手続き金は 7万円とする。

	収入 (X)	支出 (Y)		今月の銀行への貯蓄額 (X-Y)
		A+B+C	イベント(±)	
例	25万円	19万7000円	臨時収入が5000円入る(+)	5万8000円
10月	25万円			
11月	25万円			
12月	25万円 +ボーナス	光熱費+5000円		
1月		光熱費+5000円	受験料：- 円 (公立 校 私立 校) とイベント 円	
2月		光熱費+5000円	入学手続き金- 円 とイベント 円	
3月				

* 月々の貯蓄合計： 円

スタート時の貯蓄額を*に足して・・・合計 円

【ゲームを通して気づいたことや、お金はどのように使うべきか思ったか記入しよう。】

【高等学校への進学にかかる費用を見て、進路選択にはどんなことが大切だと思ったか。】
